

待ちに待った給食
ごはん 納豆
白菜のおひたし
さつま汁

ほぼ日刊 夢の華 c' a' r' a' t

第770号

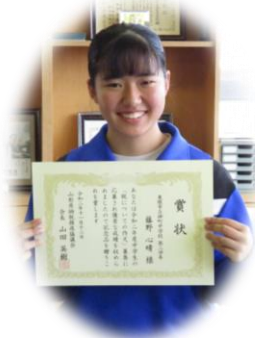
神町中学校 夢色通信社
令和2年12月3日

12月1日、「税についての作文」コンクールの表彰式が行われた。

「税についての作文」 山形県納税推進協議会会長賞

税の大切さ

3年 藤野 心晴



私は今まで2回救急車に乗ったことがあります。1回目は私が1歳のころ、急にけいれんを起こしてしまい運ばれました。一時的に意識を失い、初めてのことで慌てた両親が呼びましたが、すぐに救急車が駆けつけてくれたため大事には至りませんでした。2回目は妹が1歳の頃、窓際に置いていたソファから転落し、窓のサッシにおでこが刺さってしまい、血が大量に出てしまったため救急車を呼び来てもらいました。どちらも救急車が来てくれたおかげで大事に至らず、早い処置のおかげで後遺症も残りませんでした。もし救急車が来なかったらと思うと、恐ろしいです。

そういえば、救急車に乗ったときにお金は払ったのだろうかという疑問に思い母に聞いてみたら、無料だということを初めて知りました。何で無料なのか調べてみたら、税金でまかなわれていることを知り驚きました。救急車の人件費や救急車のガソリン代やメンテナンスにかかる費用、治療に使用する医療器具代など、すべて税金でまかなわれているそうです。

さらに調べてみると、救急車は1年間に660万回も出動していることを知りました。そして、660万回のうち約半分が軽症者だそうです。安易に救急車を呼び、本当に救急車を必要とする人が利用できなく困ってしまうこともあるそうです。税金は本当に必要な人のために使われるべきであり、無駄に使うことは絶対にいけないことだと思います。

また、私の家は母子家庭です。母1人子3人で、祖父母が近所にいるわけではありません。そのため母はフルタイムで働き、私たち子供は小さい頃から子供だけで留守番することが普通でした。しかし母がフルタイムで働いても給料は低く、それに小さな子供が3人もいれば具合が悪くなることもしょっちゅうあったため、仕事を休まないといけなくなることもよくあり、益々給料が少なくなったそうです。母が「昔、100円のパンを3人で分けて食べさせたこともあった。それくらい大変だったんだよ。」と言っていたことがありました。そんな苦しい生活をしていましたが、今、家族4人なんとか生活できているのも、母の努力と国や県からの税金のおかげで生活できているのだと思います。まず学校の費用は払っても一部返金があったり、医療費も無料だったり、その他さまざまな税金によって生活を支えてもらっています。

私が普通にみなと同じ制服を着て学校に通えていることや、好きなものを買ったりできていることも、税金のおかげもあるのだと思うと、無駄に使ってはいけないなと思います。これからは、税があることにきちんと感謝をして、使うときは大切にに使わせてもらい、払わなければいけない税はしっかりと払い、税の大切さを意識しながら生活していこうと思います。

